



(参考仮訳)

プレスリリース No. 09/403
即時解禁
2009年11月13日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

**ドミニク・ストロスカーン IMF 専務理事：
アジアが危機後の世界経済の再構築を先導**

国際通貨基金 (IMF) のドミニク・ストロスカーン専務理事は本日、シンガポール通貨監督庁が主催する会議で演説を行った。この中で同専務理事は、世界経済の持続的成長の実現に向けアジアが世界経済の先導役を担うべきであり「これは、アジア経済の規模からみて妥当であるし、問題の解決に向けアジアが重要な位置を占めることから必然的でもある」と述べた。

また、ストロスカーン専務理事は、アジアはその力強い経済により世界金融危機を切り抜けたと共に、世界経済の回復を先導していると述べた。IMF は来年のアジアの GDP 成長率を 5.75% と予測しているが、これは世界経済全体の見通しである 3% の約 2 倍となっている。「強固なファンダメンタルズを有し、また危機に対し迅速且つ断固たる政策対応を採ったことにより、アジア経済は他の地域と比較し非常に順調であり、世界経済の回復の下支えにおいて重要な役割を果たしている」。

今後アジアが長期に渡り繁栄するためには、危機後の経済における新たな課題に適応することが肝要である。ストロスカーン専務理事は「輸出拡大のペースには限りがあり、特に国内及び地域内の需要がアジアの成長を支える上で更に重要な役割を果たすことが求められる」と述べた。G20 や IMF といった国際協議の場におけるアジアの重要性が増していることを指摘した上で、ストロスカーン氏は「今こそアジアはより強力な発言力を用いて、金融・経済秩序の再構築に向けた世界的取り組みに貢献すべきだ」と述べた。

またグローバルな状況に関し、世界経済は最悪期を脱したという認識を示す一方で、回復は依然として「脆弱」だと述べた。このことから政策当局者に対し、回復が確固たるものとなり、特に失業率改善の条件が整うまで、支援策を継続するよう強く要請した。また、ストロスカーン氏は「アジア数カ国を含む新興市場国の中には、順調な回復を見せ危機支援策を早々に解消できる国もある」と述べたが、それ以外の国では景気刺激策の継続が求められる。また同地域の良い見通しを反映し、ア

ジアの多くの国への資本フローが回復したが、これにより資本流入国にマイナスの影響を及ぼす可能性もあると指摘した。ストロスカーン専務理事は、そのような影響の軽減に向け政策当局には様々な選択肢があるとすると共に、先進国で依然として増加を続ける失業を背景とした保護主義の台頭の危険性を封じ込める必要があると述べた。

危機後の世界の再構築における優先事項とアジアの役割

ストロスカーン氏は危機後の世界経済における政策上の優先課題3項目を示した。

1. 世界需要の再調整。 大幅な経常収支赤字を抱えている国では、国民の貯蓄増加に取り組む必要がある。米国を始めとするこのような国々では、財政再建が最重要事項である。一方巨額な経常収支黒字を有する中国のような国では、内需拡大が求められる。利回りの高い投資を後押しする政策は、内需を刺激すると共にアジアの過剰な貯蓄の減少に寄与すると期待される。アジアのインフラ、教育、「グリーン」テクノロジー（環境保全技術）への投資は大きな可能性を秘めているが、「世界が再調整の取り組みを成功させるには、為替レートが中期的なファンダメンタルズを反映するものでなければならない」と、ストロスカーン専務理事は付け加えた。

2. 国際通貨制度の強化。 ストロスカーン氏は、この度の危機により新たな「グローバルな金融保険」の必要性が明らかになったが、IMFはそのような保険を効果的に且つ確実に提供する能力を有していると述べた。しかしながら、IMFの財源は危機の間に拡大したとはいえ、IMFが世界の「真に信頼に足る最後の貸し手」としての役割を果たすには、その融資財源は更に強化される必要があると述べた。またストロスカーン氏はアジアの役割に関して、チェンマイ・イニシアチブの融資枠組みが、IMF融資を補完する重要な役割を果たすことができるとし、「アジア地域のみならず他の地域においても、これら地域枠組みの資金をIMFのフレキシブル・クレジットラインと連携させることにより、同制度が更に効果的となるような手法を検討する必要がある」と述べた。

3. より安全で安定した金融システムの構築。 ストロスカーン氏は、アジアの金融システム及び金融機関が直面している改革への圧力は、危機の震源地の国々と比較し遥かに小さいと述べた。これは主に1997~98年の危機後に行われた大規模な改革によるものである。しかし同氏は新たなリスクが生じる可能性があるとして「アジアは警戒を緩めてはならない」と警告、政策当局者に対し厳格な監視制度を今後も継続するよう要請した。同時にアジアは、金融市場の発展は危険を伴うとしてその重要性を軽視するようなことがあってはならないと述べた。「アジアの金融市場、特に資本市場の発展は、同地域の膨大な貯蓄を最大限に活用し内需を支えるために不可欠である」。

アジアと新たなグローバルガバナンスの枠組み

ストロスカーン専務理事は、G20においてアジアは確固たる地位を占めていることから、世界の金融アーキテクチャーの再構築に重要な貢献をする足がかりとなったと述べた。さらに韓国が来年のG20会議の主催国であることから「アジアが、持続的で強固な成長という新たな時代に世界経済を牽引するだろうという強い期待の下、世界の注目はアジアに集中するだろう」と語った。同専務理事は、アジアのクォータのシェアを大幅に増加させることになるIMFのガバナンス改革は、同プロセスの重要な一環であると述べた。

またストロスカーン専務理事は、IMFはアジアとの関係を深化させる新たな方策を模索していることを強調した。第一の策として、（専務理事のシンガポール訪問期間中に設立総会を開催した）新規に設立された賢人諮問グループなどを通し、アジアの見解に耳を傾けるためのパイプ作りを強化するとしている。またIMFはASEANなど他の地域グループとの関係の強化も図っている。また専務理事はIMFは加盟各国のニーズに対応できるよう、IMFの融資制度並びにクロスカントリー分析などの面で重要な改革を行っていることを強調した。

最後にストロスカーン専務理事は、改革がアジアにとり「危機後の世界経済の再構築へ貢献する多大な機会」をもたらす一方、IMFにとっては「加盟国に対する我々の正当性を高め、結果我々が更に実効的となることを実現するものだ」と締めくくった。